

被害にあった女性が本誌だけに語った

# ひきざり「車下の恐怖」

車が人を引っかけてひきざり、そのまま逃げ去る。そんな残忍な事件が相次ぐ。ひきざられたらどうなるのか。生還した女性が本誌に「体験」を語った。

意識が戻った。暗がりにはらんと伸びた自分の両足が、地面で波打っているのが見えた。ブォーンとうるようなエンジンの轟音が耳をつんざく。仰向けに寝そべったまま、左右の視界に入る景色がものすごい勢いで前へと流れていく。背中や尻が道路と擦れ、激痛が走った。自分はいま、車の下でひきざられている——と、その時気づいた。

## 肉がどんどん削れる

大阪府東大阪市に住む女性(41)がバイクで勤務先に向かっ

に約150メートルにわたってひきざられ、九死に一生を得た女性から話を聞くことができた。彼女の口から語られたのは、これまで聞いたことがないほど空恐ろしい情景だった。

大阪府東大阪市に住む女性(41)がバイクで勤務先に向かっ

ていたのは、昨年9月1日未明のことだった。行き交う車のほとんどない、街路灯が照らす道を約10分ほど走り、東大阪市内の市道交差点に直進した。とそ

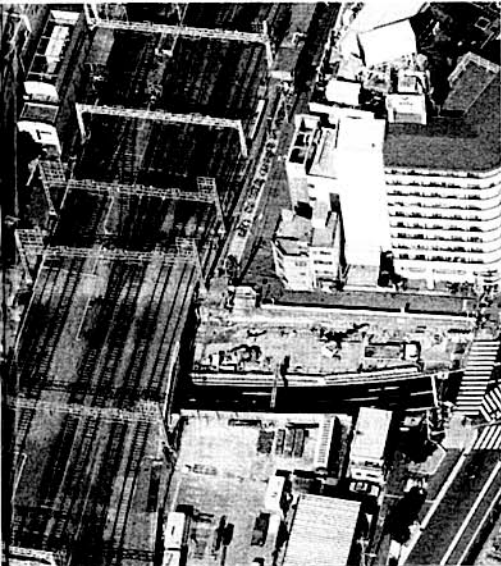
のとき、前方で止まっていた対向車が突然右折してきた。あっ、と思った直後、「バーン」という音とともに意識を失い、次が気がつくと、乗用車の底の鉄板と

コンクリート地面との間だった。後でわかったことだが、乗用車にはねられた女性はボンネットに乗り上げ、フロントガラスに頭部を強打。そのはずみでヘルメットと両足の靴は脱げてしまっていた。

仰向けに寝そべった車の下では、着ていたジャンパーのえりが車の底部に引っかかり、頭部が吊り上げられるように少し浮いていた。頭を車の進行方向に

人をはね、車体の下にひきざったまま逃走して死傷させる残忍なひき逃げ事件が大阪で相次ぐなか、本誌は、ひき逃げ車両

大阪市北区で10月21日未明、無免許で酒に酔った建築会社員(22)運転の乗用車が歩行中の会社員(30)をはね、約3キロひきざって死亡させ逃走。15日間の逃亡中、大阪市内のホストクラブに勤務し、付近のクラブに「がんばります」とあいさつに訪れて焼酎のロックを5杯ほど飲んだという。写真は遺体発見現場



18日間麻酔で眠る  
首が吊り上がっているから、辛うじて上半身だけは動かせた。左右に揺り動かしてから、思い切って体を横向きにすると、ジャンパーの引っかかりが取れた。同時に、体が車から置き去りになり、気が遠くなりながらも、路上に横たわっていることがわかった。

自転車で駆けつけた人が、救急車を呼んでくれた。女性が乗用車にひきざられて

